

# 日本簡牘研究文献目録

早 苗 良 雄

日本で初めて大量に木簡が出土したのは一九六一年一月であった。その後、十五年を経て、全国各地で出土する木簡を総合して研究する体制が、奈良国立文化財研究所主導でとられることになった。それは、一九七六年一月十三日、十四日の両日に行われた木簡研究会である。この集会は「今後の日本の木簡研究の出発点ともなすべき基礎的かつ根本的問題を呈示し得たと同時に、他方、各遺跡等からの報告により、各地の木簡の実態をほぼ把握しうる機会」という目的のために行われ、「提出された事柄については、早急に結論の出ないものがあり、今後に残された問題も多いが、各専門分野の研究者により実物に即して、これまで余り考えられなかった木簡の諸問題について話しあわれた」のである。この様にして、日本の木簡研究は、個別研究から総合研究へと新しい段階を迎えることになったのである。この十五年間の木簡発見件数は、全国各地でかなりの数にのぼるが、こ

れ以前にも二度発見されている外、伝世のものも存在するので、両者を含めてその様子をながめてみる。日本における木簡出土の最古の例は、一九二八年三重県柚井遺跡の一枚の木簡であるが、その後、一九三〇年に秋田県弘田柵跡より発見された二枚の木簡もある。しかし、これら戦前出土の木簡以後、平城宮跡の出土まで発見されなかった。その意味で平城宮跡木簡の出土は、人々をおどろかせたのである。他方、伝世のものは、正倉院にみられるもので早くからその存在は知られており、大日本古文書や正倉院目録にみい出すことができる。しかし、両者ともその数が少ないことや、その価値について余り考慮されなかったため、瀧川政次郎氏の指摘にとどまり、人々に注目されなかったのである。出土した木簡が人々に注目されたしたのは、前述の如く一九六一年の平城宮跡木簡にはじまる。その後つづいて、一九六三年、広島県下岡田遺跡、一九六六年、奈良県藤原京跡、一九六七

年、奈良県飛鳥京跡、一九六九年、大阪府上田部遺跡、一九七〇年、宮城県多賀城跡、島根県出雲国庁跡、福岡県太宰府史跡、一九七一年、静岡県伊場遺跡、京都府長岡京跡、一九七二年、神奈川県下曾我遺跡、富山県高瀬遺跡、じょうべのみ遺跡、大阪府難波宮跡、一九七三年、広島県草戸千軒町遺跡、一九七四年、福井県一乗谷朝倉遺跡、岡山県美作国府跡、一九七五年、平安京跡という様に各地でつきつぎと報告されたのである。これを見ると、大半は一九六〇年代の後半、とくに、一九七〇年前後からここ五・六年にかけて発見されたものが多い。これは、各地の発掘担当者の熱意の賜物である。しかし、木簡発見がなにやら一種の流行の様な気配さえ感じられる今日、木簡出土が新しい資料を提供してくれるとはいえないながら、保存上から若干の疑問を抱かざるを得ない。この様な風潮に対する岸俊男氏の「木簡の完全保存方法が確立されていない今の段階で余り発掘を急ぐ必要はないのではないか」という指摘を慎重に考慮する態度も必要であろう。

各地の出土木簡は、時代別に分けると、古代（飛鳥、奈良、平安時代）のもの、中世（室町時代）のもの、そして近世（江戸時代）のものに大別することができる。このうち、中、近世の木簡出土は、中国木簡からは全く考えられなかった。しかし、中世以降の木簡が日本で発見されている以上、中国木簡についてもその存在を今後

考える必要もあるのではないだろうか。この様な日本の木簡研究の課題は、やはり、現物に即してその多目的な用途を分析考究し、総合的に検討することであろう。それには、数多くの情報を整理、総合しなくては、とてもこの様な新しい研究段階に対応できないと考えられるため、この目録を作製したのである。これにより、日本木簡の総合研究の一助となれば幸いである。

この文献目録は、日本出土の木簡に関連した報告書と研究論文を収録した。ただ、現在、日本の木簡の概念が「木片に墨書したもの」という以外に定説がなく、中国の木簡からは理解しがたいものまで含むというところから、それらを含めてできるだけ広く収録したが、この目録である。収録にあたっては、新聞、雑誌の記事や報道の中で、著者名のないものについてはすべて省略した。その下限は、一九七七年十月現在とした。

この排例は、総説の外に、古代、中世、近世に区分して遺跡ごとにとまとめ、北から南へ刊行年順にして発掘報告、研究論文に分類した。ただ、その内容が、複数の遺跡に関連する場合は再録した。目録中の「奈文研年報」は「奈良国立文化財研究所年報」、「奈文研学報」は「奈良国立文化財研究所学報」の略称である。

尚、中国簡牘研究文献目録同様、書道関係者の文献も探したのであるが寡聞にして余り見つけ出すことはできなかった。また、他の文献についても逸しているものも

多いと思われるが、今後、先学諸賢の御教正をいただき、て追加してゆきたい。

A 総説

一九六七

岸 俊男 木簡の出土と宮址の発掘

大書67-7又「宮都と木簡」(吉川弘文館一九七七)所収

一九六九

岩崎友吉・樋口清治 木製品の保存処置—平城宮跡出土木簡等について

保存科学第5号 (東京国立文化財研究所)

一九七〇

岸 俊男 木簡

新版考古学講座7 (雄山閣)

一九七一

狩野 久 木簡

古代の日本9 (角川書店)

沢田正昭 遺跡、遺物の保存

一九七二

坪井清足 総説—木簡特集—

駒井鷗静 「日來の木簡」

考古学ジャーナル64 日本書大系(1) (講談社)

直木孝次郎

「古事記の国名表記について」

大阪市立大学文学部 紀要人文研究23-10 又「飛鳥奈良時代の

一九七三

沢田正昭 考古学資料保存の科学的研究(1)

研究論集I (奈文研学報21)

一九七四

坪井清足 木簡学の提唱 (史学会第72回大会公開講演)

史学雑誌83-12

\* \*

坪井清足 地方官衙と城柵

古代史発掘9 (講談社)

鬼頭清明 律令制と木簡

古代史発掘9 (講談社)

田辺昭三 食生活と服飾

古代史発掘10 (講談社)

町田 章 交通と交易

古代史発掘10 (講談社)

庶民生活と貴族社会

日本生活文化史2 (河出書房新社)

東野治之 奈良平安時代の文献に現れた木簡

研究論集II (奈文研学報22) 又「正倉院文書と木簡の研究」(塙書房一九七七)

た木簡

所収

一九七五

沢田正昭 遺跡、遺物の保存の科学

奈文研年報一九七五

研究」(塙書房一九七五)所収

横田拓実 木簡 \* \* 書の日本史Ⅰ(平凡社)

井上光貞 古代史研究の世界 一九七六

歴史研究室 一九七五年度木簡研究会集

藤枝 晃 わが国出土の木簡―奈良の

第一回木簡研究会によせ  
て―

木簡研究会報告要旨

第一回木簡研究会記録

狩野 久 日本簡の形態、用途につい

て

岸 俊男 木簡研究の課題

彌永貞三 古代史料論―木簡―

藤枝 晃 木簡あれこれ

一九七七

書の日本史Ⅰ(平凡社)

吉川弘文館

奈文研年報一九七六

出版ダイジェスト八

二五号(4月21日)

奈良国立文化財研究

所

奈良国立文化財研究

所

木簡研究会報告要

旨、又第一回木簡研

究集会記録

木簡研究会報告要

旨、又第一回木簡研

究集会記録又、「宮

都と木簡」(吉川弘

文館一九七七)所収

岩波講座日本歴史25

(別巻2)(岩波書店)

言語生活一九二

岡本健一 木簡

第二回木簡研究会記録

毎日新聞6月11日  
奈良国立文化財研究

所

奈良国立文 木簡関係文献目録―附出土

化財研究所 遺跡分布図・調査の現状―

東野治之 美術に現われた木簡

今泉隆雄 貢進物荷札について

弥永貞三 木簡の形態―長さ・幅・縦

横などよりみた―

横田拓実 木書様木簡に関する諸問題

東野治之 正倉院文書と木簡の研究

岸 俊男 宮都と木簡―よみがえる古

代史―

竹内、山田 日本古代人名辞典

平野編

角林文雄 木簡を意味する文字につい

て

一九七八

東野治之 「札」と「札」―角田文雄

氏の所説を読んで―

B 古代

○飛鳥時代

続日本紀研究195

続日本紀研究194

全七巻、吉川弘文館

吉川弘文館

堀書房

記録

第2回木簡研究会

記録

第2回木簡研究会

記録

第2回木簡研究会

研究(堀書房)

正倉院文書と木簡の

11

埋蔵文化財ニュース

1 飛鳥京跡(奈良県)

一九六六

榎原考古学 「飛鳥宮跡昭和41年度発掘調査概報」 奈良県教育委員会

末永雅雄 飛鳥京跡出土の文字(口絵解説)

一九六七

岸 俊男 飛鳥京跡と木簡の出土 朝日新聞大阪版10月25日夕、又「宮都と木簡」(吉川弘文館一九七七)所収

一九七〇

榎原考古学 飛鳥京跡発掘調査簡報(1) 奈良県教育委員会

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和46年発掘調査概報― 奈良県教育委員会

一九七三

白石太一郎 明日香養護学校校庭出土の木簡 青陵22号

一九七四

飛鳥京跡発掘調査出土土木簡概報(1) 平城宮第13次発掘調査出土土木簡概報(9)に併載

末永雅雄 飛鳥京跡調査私見

飛鳥京跡1(奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第26冊)

奈良国立交 飛鳥藤原宮発掘調査出土土木簡概報(2) 一九七五

化財研究所 飛鳥藤原宮発掘調査報告1 一九七六

奈良国立交 飛鳥藤原宮跡の発掘調査

金子裕之・千田剛造 飛鳥地方遺跡の木簡

網干善教 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

榎原考古学 飛鳥京跡―昭和50年度発掘調査概報―

2 坂田寺跡(奈良県)

一九七二

朝日新聞社

坂田寺木簡(飛鳥展―その謎をさぐる―)(図版のみ)

小田急開店10周年記念特別展図録

一九七三

菅原正明・飛鳥藤原宮跡の発掘調査

奈文研年報一九七三

山中敏史

奈良国立文 飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報1

平城宮第13次発掘調査出土木簡概報(9)に併載

化財研究所

一九七五

奈良国立文 飛鳥藤原宮発掘調査概報5

化財研究所

3 大官大寺(奈良県)

奈良国立文 大官大寺第3次の調査

飛鳥藤原宮発掘調査概報7

化財研究所

川越俊一・大官大寺第3次調査

岩来正二

4 難波宮跡(大阪府)

中尾芳治 難波宮跡

一九七六

谷元常次 都城址調査の最新成果

一九七七

5 藤原京跡(奈良県)

一九六六

藤原宮跡―昭和41年度調査

奈良県教育委員会

概要―

一九六七

藤原宮跡―昭和42年度調査

奈良県教育委員会

概要―

坂本太郎

藤原宮跡の木簡の意義

朝日新聞3月3日夕

\* 一九六八

和田 萃

藤原宮跡―昭和43年度調査

奈良県教育委員会

概要―

\* 岸 俊男

岸 俊男

藤原宮跡の木簡

大和歴史館友史会

\* 一九六九

岸 俊男・藤原宮(奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第25冊)

和 田 萃 然記念物調査報告第25冊

月刊文化財(第一法規出版)59又「宮都と木簡」(吉川弘文館一九七七)所収

\* 阪倉篤義

阪倉篤義

国語史資料としての木簡

奈良県教育委員会

\* 関根真隆

関根真隆

奈良朝食生活の研究

国語学76 吉川弘文館

一九七〇

著出版)

和田 幸 辛酉年木簡について

桃山歴史地理14号

弥永貞三 古代志摩国とその条里

池辺 弥 和名類聚抄郷名考證増訂版

吉川弘文館

「名古屋大学日本史論集(上)」(吉川弘文館)所収

一九七一

小谷博泰 宣命体の成立過程について

国語と国文学48-1

直木孝次郎 飛鳥時代の研究

塙書房

—藤原宮跡出土木簡をめぐって—

言語生活12月号

金子裕之・飛鳥藤原宮跡の発掘調査

奈文研年報一九七六

阪倉篤義 木簡の語る世界

月刊考古学ジャーナル64

千田剛造 飛鳥藤原宮発掘調査報告I

奈文研学報27

一九七三

和田 萃 藤原宮跡

法政大学出版局

飛鳥藤原宮発掘調査報告I

奈文研年報一九七六

宮原武夫 日本古代の国家と農民

一九七三

和田 萃 藤原宮出土の木簡—その1—

木簡研究会報告要旨、又第一回木簡研究集会記録

奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報(1)

一九七四

鬼頭清明 藤原宮出土の木簡—その2—

木簡研究会報告要旨、又第一回木簡研究集会記録

甲斐忠彦・上野邦一 飛鳥藤原宮跡の発掘調査

(第10・11次調査) 一九七五

岸 俊男 宣命簡

柴田実先生古稀記念日本文化史論叢

一九七五

奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報(2)

一九七五

岸 俊男 木と紙—木簡研究の一齣—

横田健一先生還暦記念日本史論叢

奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮発掘調査概報(5)

一九七五

東野治之 「論語」「千字文」と藤原宮木簡

「万葉集研究」第5集(塙書房一九七六)

岸 俊男

宣命簡について—日本古文書学会第七回学術大会発表要旨—

古文書研究第9号

宮木簡

又、「正倉院文書と木簡の研究」(塙書房)

一九七七

川越俊一・「飛鳥藤原宮跡の発掘調査  
岩来正二―藤原宮出土木簡―」

\* \*

猪熊兼繁 二人の人物像か―藤原宮の  
絵木簡―

東野治之 藤原宮木簡の書風について  
東野治之 木簡の書風について

東野治之 王羲之の手本

勝浦令子 律令制下贄貢納の変遷

一九七八

山崎信二・飛鳥・藤原宮跡の発掘調査  
松来修自

\* \*

鬼頭清明 御贄に関する一考察

東野治之 志摩国の御調と調制の成立  
東野治之 藤原宮木簡にみえる無姓者

○奈良時代

一九七七) 所収

奈文研年報一九七七

読売新聞 5月26日夕

ミュージアム三一四

号正倉院文書と木簡

研究(塙書房一九七七)

所収

日米歴史352

奈文研年報一九七八

竹内理三博士古稀記

念会編「統律令国家  
と貴族社会」(吉川  
弘文館) 所収

日本史研究192  
続日本紀研究199

6 弘田柵跡(秋田県)

一九三〇

藤井東一 弘田柵

一九三一

上田三平 「指定史蹟弘田柵址」

一九三八

文部省(内務省編)  
務省編)

一九五八

滝川政次郎 短冊考―弘田柵址出土の木  
札について―

一九七五

平川 南 弘田柵跡―昭和50年度発掘  
調査概要(第七次発掘調査)―

一九七六

平川 南 弘田柵跡、胆沢城跡、落合  
遺跡

一九七八

平川 南 弘田柵跡出土の新木簡につ  
いて

一九七八

平川 南 弘田柵跡出土の新木簡につ  
いて

一九七八

7 落合遺跡(岩手県)

秋田考古会々誌第2  
巻4号

高梨村史蹟保存会

史蹟精査報告3

古代学7-12又「律  
令諸制及令外官の研  
究」(角川書店一九  
六七) 所収

弘田柵跡調査事務所  
年報一九七五、又秋  
田県文化財調査報告  
書第40集

第一回木簡研究集会  
記録

日米歴史357



平川 南 弘田柵跡、胆沢城跡、落合 第一回木簡研究集会  
遺跡 記録

8 胆沢城跡(岩手県)

一九七六

水沢市教育 胆沢城跡昭和50年度発掘調査概報  
委員会

平川 南 弘田柵跡、胆沢城跡、落合 第一回木簡研究集会  
遺跡 記録

一九七七

水沢市教育 胆沢城跡昭和51年度発掘調査概報  
委員会

9 下曾我遺跡(神奈川県)

一九七二

国学院大学 国学院大学考古学資料室要  
考古学資料室 覧一九七二(図版のみ)

一九七三

国学院大学 国学院大学考古学資料室要  
考古学資料室 覧一九七三(図版のみ)

10 伊場遺跡(静岡県)

一九七一

浜松市遺跡 伊場遺跡第3次発掘調査概  
調査会 報一九七一

浜松市遺跡 伊場―第4次―

調査会

伊場遺跡発 伊場遺跡第4次発掘調査の

伊場第4次調査月報  
1・2・3・4・5  
伊場第4次調査月報

掘調査団 成果(要旨) 5  
向坂鋼二 静岡県伊場遺跡出土の奈良  
時代遺物 考古学雑誌56―3  
遠江考古学 伊場遺跡の話

研究会

浜松市遺跡 伊場遺跡出土文字集成  
調査団 (概報) 浜松市遺跡調査会

芝田文雄 敷智郡竹田郷考ノ一ト(上) 3 伊場第4次調査月報

芝田文雄 敷智郡竹田郷考ノ一ト(下) 4 伊場第4次調査月報

川江秀孝 伊場遺跡 一九七二 考古学ジャーナル64

米田雄介 伊場木簡と評制 \* 律令社会の再検討歴  
史学研究会古代史部

一九七三 会一九七二年夏季合  
宿報告―浜松市郷土  
博物館

一九七三 浜松市遺跡調査会

浜松市教育 伊場遺跡出土文字集成  
委員会 (概報) 二

佐々木虔一 伊場遺跡見学会と講演会  
文化財を守るために

芝田文雄 泥まみれの市民運動 8 朝日ジャーナル8月

菊地康明 地方の古代史解明の宝庫

31日号

朝日ジャーナル8月

31日号

竹内理三 かけがえのない遺跡

読売新聞全国版3月

17日

米田雄介 伊場木簡について

文化財を守るために  
9・10合併号

東野治之 天智紀にみえる「月生」の語について

万葉81号、又、「正倉院文書と木簡の研究」(一九七七)所収

\* \*

一九七四

佐々木度一 伊場木簡とその性格

歴史手帖2-4

竹内理三 伊場遺跡の意味

史潮113

芝田文雄 伊場遺跡

歴史と人物4の10

一九七五

浜松市教育委員会 伊場遺跡第6第7次発掘調査概報

浜松市遺跡調査会

井上光貞 伊場と木簡

学士会々報七二六  
又、「古代史研究の世界」(吉川弘文館一九七五)所収

\* \*

一九七六

浜松市郷土博物館 伊場木簡―伊場遺跡発掘調査報告書所第1冊

浜松教育委員会

東野治之 伊場遺跡出土の木簡

木簡研究集報告要旨、又第一回木簡集

会記録

米田雄介 評の成立と構造

大阪歴史学会編「古代国家の形成と展開」(吉川弘文館一九七六)所収

\* \*

一九七七

斎藤 忠 伊場遺跡発掘調査報告書第2冊―伊場遺跡遺構編―

浜松市教育委員会

水野 正好 伊場放生木簡の顕現

三浦古文化21

11 高瀬遺跡(富山県)

阿部義平・高瀬遺跡発掘調査概報

富山県教育委員会

舟崎久雄 一九七二

狩野 久 富山県埋蔵文化財調査報告書III

富山県教育委員会

12 じょうべのま遺跡(富山県)

岡本 じょうべのま遺跡発掘調査概報

富山県教育委員会

一九七二

狩野 久 富山県埋蔵文化財調査報告書III

富山県教育委員会

一九七四

一九七五

入善所じょうへのま遺跡発

富山県教育委員会

職

・5・6合併号

掘調査概報(3)

一九六三

(続日本紀研究会)

13 平城京跡(奈良県)

一九五四

阪倉篤義

出土の木簡に探る書記生活

日本語の歴史3(平

奈良国立文  
化財研究所

平城宮第13次発掘調査出土  
木簡概報

狩野 久

一九六四

狩野 久

第13次平城宮発掘調査出土  
の木簡

奈文研年報一九六四

一九六一

奈良国立文  
化財研究所

平城宮跡第5次発掘調査報告

木村蒙章・  
鈴木 充

昭和38年度平城宮発掘調査  
概報(第13次)

奈良国立文  
化財研究所

平城宮跡出土木簡(図版の  
み)

奈文研年報一九六一

奈良国立文  
化財研究所

平城宮第13次発掘調査出土  
木簡概報(2)

坪井清足・  
田中 琢

昭和35年平城宮跡第3・4  
5次発掘調査概要

奈文研年報一九六一

松来雅明

平城京出土の肥後国関係木簡

熊本史学26号

田中 琢

5次発掘調査概要

奈文研年報一九六一

狩野 久

一九六五

日本史研究73

滝川政次郎

平城宮跡出土木簡と賦役令

日本上古史研究5-  
5(通号53号上古史  
研究会)

横山浩一・  
工業善通

昭和39年度平城宮跡発掘調  
査概要(第19・21・22次調査)

奈文研年報一九六五

榎本亀次郎

平城宮跡第6・7次発掘調  
査概要

奈文研年報一九六二

田中 琢

昭和39年度平城宮調査出土  
の木簡

奈文研年報一九六五

奈良国立文  
化財研究所

平城宮発掘調査報告II

奈文研学報第15冊

奈良国立文  
化財研究所

平城宮第13次発掘調査出土  
木簡概報(3)

日本経済史大系I  
(古代)(東大出版会)

榎本杜人

平城宮跡の発掘調査I第7  
次調査覚書I

ミュージアム一三〇

早川庄八

律令財政の構造とその変質

所収

直木孝次郎

平城宮跡出土の木簡と大膳

続日本紀研究9-4

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

田村吉水 平城宮址発掘木簡の左京小  
大和文化研究10-2

治町について

宇野茂樹 近江国阿伎里阿氏族につい  
史迹と美術355号

て

一九六六

石井則孝・三輪嘉六 昭和40年度平城宮発掘調査  
奈文研年報一九六六

横田拓実 昭和40年度平城宮出土の木簡  
奈文研年報一九六六

奈良国立文化財研究所 平城宮発掘調査報告Ⅳ  
奈文研学報第17冊

池辺 弥 和名類聚抄郷名考證  
吉川弘文館

猪熊兼勝・森 郁夫 昭和41年度平城宮発掘調査  
奈文研年報一九六七

鬼頭清明 昭和41年度平城宮出土の木簡  
奈文研年報一九六七

田中 稔 平城宮発掘木簡の一部(口  
日本歴史二二四

—— 平城宮出土木簡(口絵解説)  
奈文研年報一九六七

奈良国立文化財研究所 平城宮第13次発掘調査出土  
木簡概報(4)

井上光貞 最近出土した平城京の木簡  
月刊文化財42、又、古

代史研究の世界(吉川弘文館一九六六)

所収

河原純之 平城京と平城宮―出土遺物―  
日本の考古学Ⅶ(河出書房)

野村忠夫 律令官人制の研究  
吉川弘文館

加藤 優 木簡  
一九六八

坪井・藤井 平城宮発掘調査10年の進展  
奈文研年報一九六八

・村上 奈良国立文化財研究所 平城宮第13次発掘調査出土  
木簡概報(5)

野村忠夫 平城宮跡の木簡と官人の考  
日本歴史二四〇、又

選 「増補律令官人制の研究(吉川弘文館一九七〇)所収

鬼頭清明 平城宮出土木簡と律令官人の出身地  
帝塚山考古学No.1

横山浩一 平城宮跡  
月刊文化財59

横田拓実 造酒司木簡について  
大和文化研究12-3

坪井清足 「平城宮木簡」  
書道全集別巻Ⅱ印譜

—— 一九六九  
日本別刷附録(平凡社)

高島忠平 昭和43年度平城宮発掘調査  
奈文研年報一九六九

森 浩一・紀淡海峡地帯における古代  
同志社大学文学部考古調査報告第2冊

白石太一郎 漁業遺跡調査報告

所収



- 阪倉篤義 木簡の語る世界 言語生活12月号  
 東野治之 平城宮出土木簡所見の文選 万葉76号又、「正倉院  
 李善注 文書と木簡の研究」  
 (塙書房一九七七)  
 所収
- 綾村 宏 一九七三・七四年度発見の 奈文研年報一九七五  
 平城木簡  
 奈良国立文 左京八条三坊東市 奈文研年報一九七五  
 化財研究所 平城宮第13次発掘調査出土  
 奈良国立文 木簡概報(9)  
 化財研究所 平城宮第13次発掘調査報告Ⅵ―平  
 城京左京一条三坊の調査―  
 奈文研学報23
- 横田拓実 平城宮跡 考古学ジャーナル64  
 大和郡山市 平城京羅城門跡発掘調査報  
 告(第一〜三次発掘調査)  
 一九七三
- 吉田恵二・ 平城宮跡とその周辺の発掘 奈文研年報一九七三  
 岡本東三 調査(第77次)  
 今泉隆雄 一九七二年度発見の平城宮 奈文研年報一九七三  
 木簡
- 奈良国立文 平城宮第13次発掘調査出土  
 化財研究所 木簡概報(9)  
 \* \*  
 宮原武夫 日本古代の国家と農民 法政大学出版局  
 一九七四
- 田辺昭三 食生活と服飾 古代史発掘10(講談  
 社)  
 一九七五
- 奈良国立文 平城京左京三条二坊―奈良 奈文研年報一九七五  
 化財研究所 市庁舎建設地発掘調査報告― 奈文研年報一九七五  
 宮本・川越 平城宮跡と平城京跡の発掘  
 ・高瀬 調査(第93次)
- 直木孝次郎 飛鳥奈良時代の研究  
 坪井清足 平城宮跡 一九七六  
 藤枝 晃 平城宮の大膳職址より出土  
 した木簡(口絵解説)  
 山本岡本・ 平城宮跡と平城京跡の発掘  
 綾村・中村 調査  
 横田拓実 平城宮跡出土の木簡  
 奈文研年報一九七六  
 木簡研究集會報告要  
 旨、又第一回木簡研  
 究集會記録
- 弥永貞三 古代志摩国とその条里 名古屋大学日本史論  
 集(上)(吉川弘文  
 館)所収  
 塙書房  
 日來の美術115
- 東野治之 王勃集と平城宮木簡 \* \*  
 万葉88号、又「正倉院  
 文書と木簡の研究」  
 (塙書房一九七七)  
 所収

奈良国立文 平城京左京八条三坊発掘調査  
化財研究所 査概報―東市周辺東北地域の調査―

奈良国立文 平城京左京三条二坊六坪発  
化財研究所 掘調査概報

東野治之 奈良時代における「文選」  
の普及

岸 俊男 木と紙―木簡研究の一齣―

狩野 久 律令財政の機構

一九七七

奈良国立文 平城宮発掘調査出土  
化財研究所

加藤 優 一九七六年度発見の平城宮  
木簡

\* \*

東野治之 成選短冊と平城宮出土の考  
選木簡

東野治之 王羲之の写本

鬼頭清明 日本古代都市論序説  
勝浦令子 律令制下贄貢納の変遷  
一九七八  
法政大学出版局  
日本歴史352

奈良県文化 平城京左京三条二坊六坪  
財保存対策 庭園遺跡の保存について  
連絡会  
日本史研究190

平城宮跡発 平城宮跡と平城京跡の調査  
掘調査部  
今泉隆雄 平城宮および京跡出土の木  
簡  
奈文研年報一九七八

鬼頭清明 御贄に関する一考察  
\* \*  
竹内理三博士古稀記  
念会編「統律令国家  
と貴族社会」(吉川  
弘文館)所収

岸 俊男 山背国愛宕郡考  
竹内理三博士古稀記  
念会編「統律令国家  
と貴族社会」(吉川  
弘文館)所収

東野治之 志摩国の御調と調制の成立  
長山泰孝 八世紀における調庸制の変  
遷  
日本史研究192  
続日本紀研究199

14 西隆寺跡(奈良県)  
一九七二  
奈文研年報一九七二

黒崎 直 西隆寺跡の発掘調査  
奈良国立文 西隆寺金堂跡発掘調査概報

正倉院文書と木簡の  
研究(塙書房)所収  
正倉院文書と木簡の  
研究(塙書房)所収

木簡概報11  
奈文研年報一九七七

大阪歴史学会編「古  
代国家の形成と展  
開」(吉川弘文館一九  
七六)又、「正倉院文  
書と木簡の研究」(塙  
書房一九七七)所収

横田健一先生還暦記  
念日本史論叢  
岩波講座日本歴史古  
代3(岩波書店)所収

奈文研年報一九七七

化財研究所

一九七六

奈良国立文

西隆寺発掘調査報告

西隆寺調査委員会

化財研究所

一九七七

鬼頭清明

日本古代都市論序説

法政大学出版局

15 唐招提寺講堂下層遺構(奈良県)

一九七二

岸俊男・

国宝唐招提寺講堂他二棟修

奈良県教育委員会

和田萃

理工事報告書

16 薬師寺(奈良県)

一九七一

奈良国立文

平城京羅城門薬師寺金堂発

化財研究所

掘調査概報

17 法華寺阿弥陀浄土院跡(奈良県)

一九七三

吉田恵二・

平城宮跡とその周辺の発掘

奈文研年報一九七三

岡本東三

調査

奈良国立文

平城宮第13次発掘調査出土

化財研究所

木簡概報(9)

今泉隆雄

一九七二年度発見の平城宮

奈文研年報一九七三

木簡

18 和田麿寺跡(奈良県)

一九七五

奈良国立文

飛鳥藤原宮発掘調査概報5

化財研究所

19 海龍王寺跡(奈良県)

一九七六

山本・岡本 平城宮跡と平城京跡の発掘

綾村・中村 調査―海龍王寺北方調査―

20 稗田遺跡(奈良県)

中井一夫 稗田遺跡発掘調査概報

21 正倉院伝世(奈良県)

一九一八

装束司牒条仁王會所注文

可返上筆經師歴名

献物牌

付札(牌)

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈良国立博 物館

奈文研年報一九七六

奈良県遺跡調査概報

一九七六(橿原考古

学研究所)

大日本古文书(追加

6) 12

大日本古文书(追加

6) 12

大日本古文书(追加

6) 12

正倉院棚別目録

正倉院展目録一九六

〇

正倉院展目録一九六

八

正倉院展目録一九六

八

正倉院展目録一九六

八

正倉院展目録一九六

八

正倉院展目録一九六

五

正倉院展目録一九六



一九七六

柳 雄太郎 正倉院伝世の木簡

木簡研究会報告要  
旨、又第一回木簡研  
究集会記録

一九七六

原口正三 大阪府上田部遺跡

第一回木簡研究会  
記録

\* \*

東野治之 正倉院伝世木簡の筆者

ミュージアム三〇四  
号又「正倉院文書と  
木簡の研究」(塙書  
房)所収

23 郡家今城遺跡(大阪府)

一九七三

高槻市史編 高槻市史第6卷

纂委員会 一考古編一

高槻市教育委員会

(原口正三)

24 郡家川西遺跡一嶋上郡衙跡一(大阪府)

一九七三

高槻市史編 高槻市史第6卷

纂委員会 一考古編一

高槻市教育委員会

22 上田部遺跡(大阪府)

一九六九

狩野 久 上田部遺跡の木簡一

高槻市教育委員会

上田部遺跡調査概報一

平野邦雄 上田部遺跡出土の木簡(口  
絵解説)

日本歴史二五六

26 出雲国庁跡(島根県)

一九七〇

出雲国庁跡発掘調査概報

松江市教育委員会

原口正三・  
富成哲也 大阪府高槻市における上田  
部遺跡と川西遺跡の調査

日本歴史256

町田 章 古代官衙跡(出雲国庁跡)

八雲立つ風土記の丘  
周辺の文化財(島根  
県教育委員会)

狩野 久 上田部遺跡

考古学ジャーナル64

高槻市史編 高槻市史第6卷

高槻市教育委員会

纂委員会 一考古編一

一九七七

(原口正三)

池田満雄 出雲国府域出土の木簡と墨

歴史手帖5-11(名

書へら書き土器

27 美作国府跡(岡山県)

一九七四

岡山県文化財保護協会  
岡山県埋蔵文化財発掘調査報告第6

岡山県教育委員会

岡山県の原始古代展図録

岡山県立博物館

28 下岡田遺跡(広島県)

一九六三

府中町下岡田古代建築群遺跡調査報告第2集

府中町教育委員会

一九七〇

潮見 浩・松下正司  
広島県下岡田遺跡

新版考古学講座6

29 太宰府史跡(福岡県)

一九七〇

太宰府史跡―昭和45・48年度調査概報(第4次発掘調査概要)―

福岡県教育委員会

一九七一

大宰府史跡―昭和45年度発掘調査の概要―

福岡県教育委員会

一九七二

大宰府史跡―昭和46年度発掘調査略報―

九州歴史資料館

一九七四

倉住靖彦  
大宰府政庁跡出土木簡につ

日本歴史三二二号

著出版)

いて

大宰府史跡―昭和48年度発掘調査概報―

一九七六

大宰府史跡出土木簡概報(1)

九州歴史資料館

倉住靖彦

大宰府跡出土の木簡

九州歴史資料館  
木簡研究会報告要旨、又第一回木簡研究集会記録

東野治之

令集解「古記」みえる「魏徴時務策」考―大宰府出土木簡をめぐる―

万葉92号

大宰府史蹟調査の考古学的成果

一九七七

鏡 山猛・石松好雄

大宰府史蹟調査の考古学的成果

歴史手帖5―4(名著出版)

東野治之

大宰府出土木簡にみえる「魏徴時務所」考

正倉院文書と木簡の研究(塙書房)所収

倉住靖彦

大宰府―遠の朝廷―

「古代の地方史1―西海篇」(朝倉書店)所収

30 長岡京跡(京都府)

一九七一

中山・小林  
吉本・浪見  
長岡京跡昭和44年度発掘調査概要

埋蔵文化財発掘調査概報一九七一(京都府教育委員会)

末本

一九七五

高橋美久二 長岡京跡左京三条二坊第一

次発掘調査概要

埋蔵文化財発掘調査  
概報一九七五（京都  
府教育委員会）

31 多賀城跡（宮城県）  
一九七〇

一九七四

多賀城跡調 第24次発掘調査  
概報一九七四

一九七三

多賀城跡調査研究所  
年報一九七四

一九七六

徳丸・百瀬 長岡京跡左京三条二坊第二

次発掘調査概要

埋蔵文化財発掘調査  
概報一九七六（京都  
府教育委員会）

32 平川 南 多賀城跡出土の木簡

一九七六

木簡研究会報告要  
旨、又第一回木簡研  
究集会記録

一九七七

長岡京跡発 長岡京跡左京第12次発掘調

掘調査団 查略報

「長岡京」長岡京跡  
発掘調査団ニュース  
第4号（同調査団）

33 島田貞彦 伊勢国桑名郡柚井貝塚に就  
いて  
一九五四

一九五四

考古学雑誌22―10

高橋美久二 長岡京出土の木簡

山中 章

高橋美久二 長岡京跡左京第13次調査出  
土木簡の検討

「長岡京」長岡京跡  
発掘調査団ニュース  
第5号（同調査団）

33 平安京跡（京都府）  
一九七五

三重考古圖録  
一九七五

吉川義彦 壬生車庫跡地平安京跡の発  
掘調査短報  
論集平安京研究(2)

○平安時代

31 多賀城跡（宮城県）  
一九七〇

論集平安京研究(2)

多賀城跡調 昭和45年度発掘調査概報  
査研究所

多賀城跡調査研究所  
年報一九七〇

34 伊藤・鈴木 下道工事に伴う平安京跡  
の立会調査  
平安京跡発掘調査報告―左  
京四条一坊―  
一九七七

平安調査会

岡田茂弘 多賀城跡  
一九七三

一九七三

多賀城跡調 昭和48年度発掘調査概報―

多賀城跡調査研究所

34 松井忠春 平安京発掘の成果と展望  
周防鑄銭司跡（山口県）

歴史手帖5―5（名  
著出版）

八木 充 周防鑄錢司跡 一九七六

第一回木簡研究集會  
記錄

C 中世

○室町時代

35 一乗谷朝倉遺跡(福井県)

一九七四

朝倉氏遺跡 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡

福井県教育委員会

調査研究所 V(昭和48年度発掘調査整

備事業概報)

一九七六

朝倉氏遺跡 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡

福井県教育委員会

調査研究所 VII(昭和50年度発掘調査整

備事業概報)

一九七七

大村竹次郎 一乗谷朝倉氏遺跡の発掘

歴史手帖5-4

―越前朝倉氏館出土の木製

品(写真含む)―

36 草戸千軒町遺跡(広島県)

一九七三

草戸千軒町遺跡―第9・10

広島県教育委員会

次発掘調査概要―

一九七四

草戸千軒町遺跡―第11~14

広島県教育委員会

次発掘調査概要―

草戸千軒町遺跡―調査研究

草戸千軒町遺跡調査

ニュース第2卷(No.11~22)―

研究― 草戸千軒町遺跡―調

査研究ニュース

木札 No.15―

一九七五 草戸千軒町遺跡―埋れた中

世の町―

一九七六

松下正司 広島県草戸千軒町遺跡

第一回木簡研究集會

記録

松下正司 草戸千軒町遺跡の発掘

歴史手帖5-4

(名著出版)

37 元興寺(奈良県)

一九六八

難波俊成 元興寺極楽坊所蔵の咒符を

元興寺仏教民俗資料

めぐって

研究所年報一九六八

D 近世

○江戸時代

38 大坂城地跡

一九五三

山根徳太郎 大坂城址の文化的研究

大坂城の研究第一冊

(大坂城址研究会)

一九六九

大阪市教育 第32次発掘調査概要

昭和43年度(第31・

委員会

32・33次) 難波宮調  
査報告書

一九七一

中川信作 江戸時代木簡―大坂城地出

難波宮研究調査年報

土―

一九七一

E 未 報 告

- 39 北大津遺跡(滋賀県)
- 40 平安京跡左京4条1坊(京都府)
- 41 平安京跡左京6条1坊(京都府)
- 42 平安京跡右京4条2坊(京都府)
- 43 今井町環壕(奈良県)
- 44 但馬国分寺跡(兵庫県)
- 45 吉田南遺跡(兵庫県)

46 因幡国府跡(鳥取県)

47 南窪田遺跡(愛媛県)

48 北久米遺跡(愛媛県)

49 東京国立博物館蔵 近江国愛智郡出土木簡(室町時代)

(滋賀県)

50 秋篠寺木札(鎌倉(室町時代)(奈良県)

末筆ながら、本稿作成の資料収集には奈良国立文化財研究所狩野久氏、本学網干善教教授の御援助を、また、全般的には大庭脩教授の御指導をいただいたことを記して謝意を表す次第である。尚、本目録は一九七七年十月現在で脱稿したが、一九七八年十月までの文献で散見してきたものは追加した。